

心疾患についての研修会の様子

令和7年7月24日（木）に刀根山支援学校本校にて心疾患についての研修会が行われました。国立循環器病研究センター小児循環器内科、坂口医師に来ていただきました。研修には小学校、中学校、高等学校、支援学校など様々な校種の教員 80 名ほど参加されました。まず刀根山支援学校での授業の様子や、子どもたちの学びについて紹介し、その後坂口医師から心疾患についてのお話がありました。小児の心疾患は、胎児のときに見つかることが多く、そこから治療が開始されるようです。そのため胎児から大人になるまで長く関係が続くことが多いそうです。坂口医師からは、心臓疾患の治療がどのように変化したのかや現在の治療についてのお話がありました。治療方法の変化により、格段に治療実績がよくなっていることがわかり、参加された方は驚かれていた様子でした。質疑応答では、担当している児童・生徒の対応での配慮事項や、支援方法などの質問が出ていました。坂口医師は一つひとつの質問に対して丁寧に返答してくださいました。特に印象に残った返答に、「心配はもちろんすると思うが、できないと思って児童・生徒に制限をかけすぎないこと」という言葉がありました。保護者との連携を意識し、できることをしっかりと理解し参加できる場面を増やしていくことが大切だと実感させられました。また、本研修会を通して、心臓疾患の知識を深めることができました。

